

健康テラス

がんばれ! にっぽん! コロナに負けるな!!

とけつ げけつ 吐血・下血

突然、血を吐いたり、血液混じりの便が出たりすると驚かれる方が多いと思います。このような吐血や下血は、胃や大腸からの消化管出血が原因です。吐血は胃潰瘍や胃癌、食道静脈瘤、出血性胃炎など上部消化管の病変が多く見られます。下血は上記の上部消化管の病変に加え、出血性腸炎や虚血性腸炎、大腸憩室症、大腸癌などの下部消化管の病変が原因となります。

出血したばかりの血液は真っ赤ですが、時間が経ち胃液などが混じって酸化されると黒っぽくなります。ですから、吐血や下血した時の血液の色、それから出血量などは原因を探る場合に大変参考になります。例えば、赤い血液混じりの便がでた場合、その原因は大腸からの出血を考えます。また黒色の排便があった場合、出血から時間が経過したものと推測できるため胃や十二指腸などの上部消化管からの出血を考えます。この際の便の色は本当に真っ黒で、

コールタールの色に似ていることからタール便と呼ばれています。

吐血・下血の症状では病変がどこにあるのか、早急に検査を行い原因を調べるのが重要です。特に色調が真っ赤で出血量が多い時は、緊急内視鏡での止血治療が必要となることもあるため、救急医療を行っている病院にご相談されたほうがよいと思います。



森川内科クリニック
森川 卓先生

带状疱疹後神経痛

带状疱疹後神経痛は、带状疱疹によって神経が傷つき、変性してしまうことが原因で起こる、慢性疼痛症候群です。特徴的な症状は、下着が触れただけでもヒリヒリする痛みや、じっとしていても発作的な激しい痛みが繰り返されるのが特徴的で、ひどい人では夜も眠れないほどです。

带状疱疹は子供の時にかった水疱瘡のウイルスが体に潜み、疲れなどで免疫力が低下したときに起こり、3人に1人が発症すると言われています。高齢者に多い病気で、神経があるところならどこにでも現れますが、特に顔や胸に多く、痛みと水疱を伴う発疹が带状に片側のみに現れることが特徴です。チクチクした痛みや発疹があれば、できるだけ早く主治医に相談し治療を始めてください。早めに治療することで後遺症である、带状疱疹後神経痛をある程度防げます。

带状疱疹後神経痛に移行しやすい人は、60歳以上の人や皮膚の発疹が重症だった人です。治療法としては各種の内服薬、神経ブロックや理学療法がありますので痛みを我慢

せずに、かかりつけ医とよく相談されて治療されるとよいでしょう。またストレスや疲労が痛みを増す原因となることがありますので、睡眠を十分にとってリラックスして過ごしてください。



都クリニック
都 正彦先生